

平成24年度 まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業

モデル構想(概要)

新エネ・EVモビリティで実現する函館発回遊ネットワーク構想((株)テーオー小笠原)	P1
弘前地域の資源を活用したエネルギー地産地消まちづくり構想(弘前市)	P2
つくば環境スタイル“SMILe”を具現化する住民主導の「サステイナブルコミュニティ」構想(大和ハウス工業(株)) ..	P3
EV・PVを核とした企業コミュニティ主動の倉敷活性化・グリーン化構想(JFE商事(株))	P4
薩摩川内の地域多様性を活かした観光・住民交流の促進モデル構想(薩摩川内市)	P5

注) 各構想の詳細については、国土交通省ホームページ(http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000119.html)をご参照ください。

新エネ・EVモビリティで実現する函館発回遊ネットワーク構想 ～多様なエネルギーを活かす自立型地域を目指して～

代表提案者	(株)テオー小笠原
協同提案者	三菱重工業(株)、三菱自動車工業(株)、(株)JTBコーポレートセールス、函館自動車工業(株)

函館市は国内有数の**観光都市**として知られ、平成27年には**新幹線延伸**も控えている。しかし、観光産業の更なる活性化や公共交通網の拡充といった課題も顕在化しつつある。このため、**公共交通を補完するEVシェアリングを核としたエネルギーネットワーク**や**多機能エネルギーステーションの構築**を通じ、「訪れたい」「滞在したい」「住みたい」と思われる地域づくりを目指す。

(1)EVシェアリングを核としたエネルギーネットワーク構築

- 函館市内及び道南地域をエリアとして、電気自動車(EV)等によるカーシェアリングのネットワークを構築。
- 観光拠点(函館山、五稜郭等)にEV充電設備等を備えたシェアリングポートを整備。観光客の域内回遊と拠点間移動を実現。
- 地域住民及び地元企業の新たな公共交通としても機能。
- 災害時等にはEVを非常用電源として活用。

(2)多機能エネルギーステーションの構築による創蓄省エネ化推進

- 道の駅/交通結節点/主要観光地などに、多機能エネルギーステーションを整備。
- EV等のシェアリング拠点、エネルギー利用の効率化拠点、地域住民のコミュニティ促進拠点、地域の防災拠点として活用。
- EV充電設備等とともに、太陽光発電や鉄道回生電力の蓄電設備等の配置も検討。

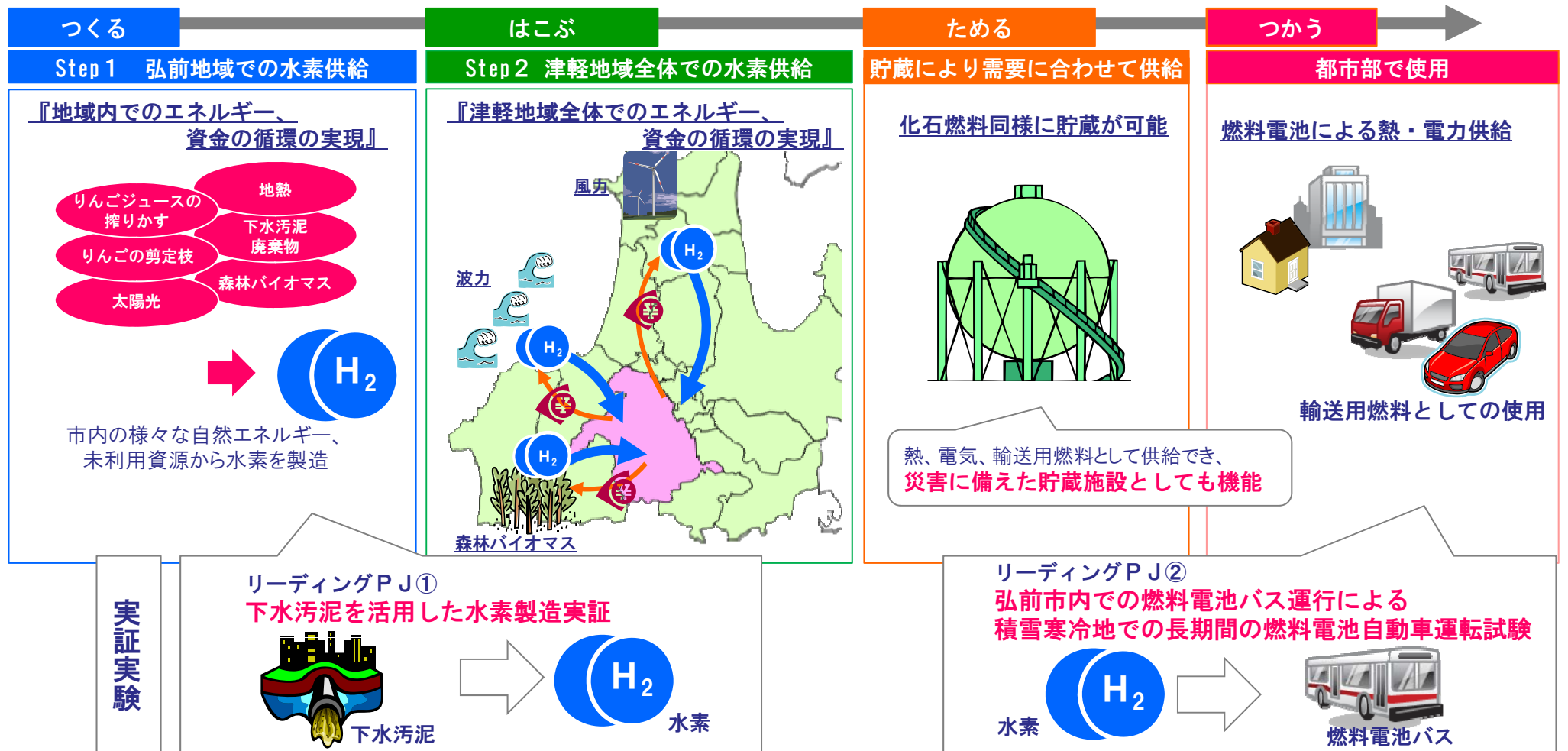


弘前地域の資源を活用したエネルギー地産地消まちづくり構想 ～グリーン水素へのエネルギー変換による「つくる」「はこぶ」「ためる」の実現～

代表提案者

弘前市

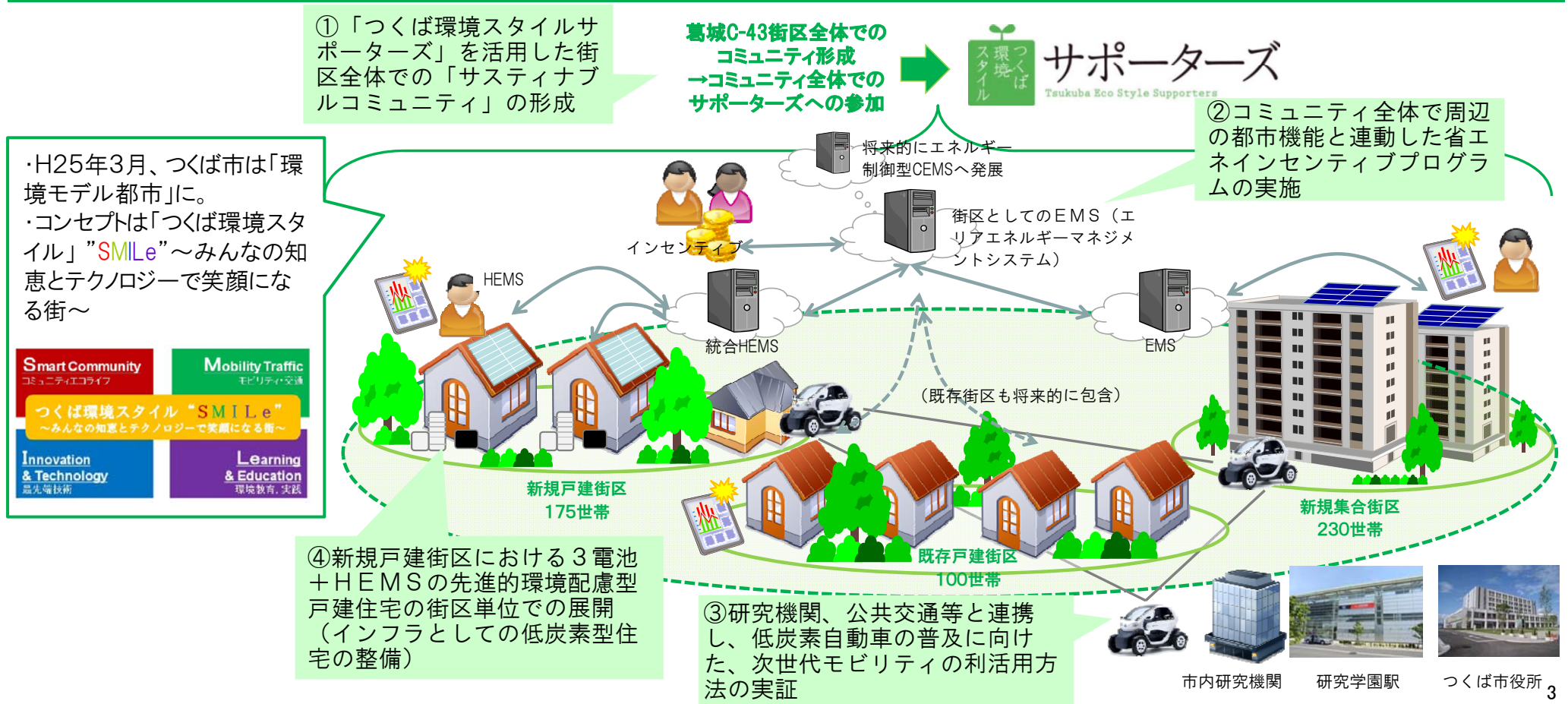
津軽地域は風力・波力・バイオマス等の豊富な再生可能エネルギー資源を有しているものの、季節・地域間の需給ギャップ等の課題を抱えている。このため、エネルギーの輸送・貯蔵を可能とする媒体として「水素」に着目し、地域の再生可能エネルギーから、「つくる」「はこぶ」「ためる」を実現する「グリーン水素による地域エネルギー地産地消モデル」の確立を目指す。



つくば環境スタイル”SMILe”を具現化する 住民主導の「サステナブルコミュニティモデル」構想

代表提案者	大和ハウス工業株式会社 つくば支店
協同提案者	NTT都市開発(株)、(株)プレイスメイキング研究所

つくば研究学園都市は、多くの先端技術や知識が集積し、高い市民力(自治意識と環境意識)を有するエリアである。当該エリアで先行的に宅地開発が進められる葛城C43街区において、これらのポテンシャルを活かした「サステナブルコミュニティ」のモデルを構築し、「環境モデル都市」つくばの目標とする「つくば環境都市スタイル”SMILe”」の具現化を目指す。



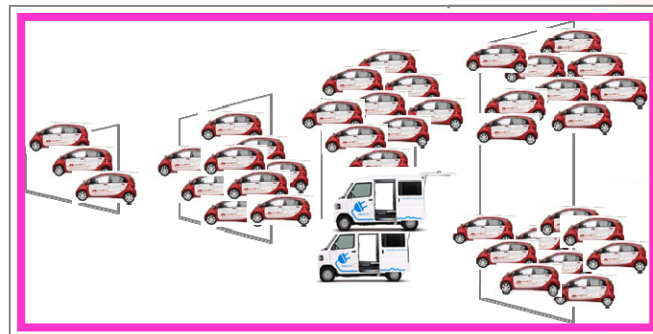
EV・PVを核とした企業コミュニティ主動の倉敷活性化・グリーン化構想 ～地域に根付く創蓄省エネルギー化モデルの実践～

代表提案者	JFE商事株式会社 岡山支店
協同提案者	住友三井オートサービス株式会社、倉敷地所株式会社、三菱自動車工業株式会社、西日本三菱自動車販売株式会社、丸五ゴム工業株式会社、倉敷まちづくり株式会社、倉敷製帽株式会社、株式会社いのうえ、カモ井加工紙株式会社、株式会社倉敷アイビースクエア、株式会社丸文、萩原工業株式会社、倉敷商工会議所

倉敷市は、水島地域にEV(電気自動車)の製造拠点を有するほか、**地場企業が地域貢献の観点からまちづくりを牽引**するなど、地域住民や観光客の足としてEVを受け入れるポテンシャルがある。このため、**地場企業のコミュニティが主体となり、EVシェアリング及びPV(太陽光発電)の持続的なビジネスモデルを構築**することで、**地域全体の活性化とグリーン化を目指す**。

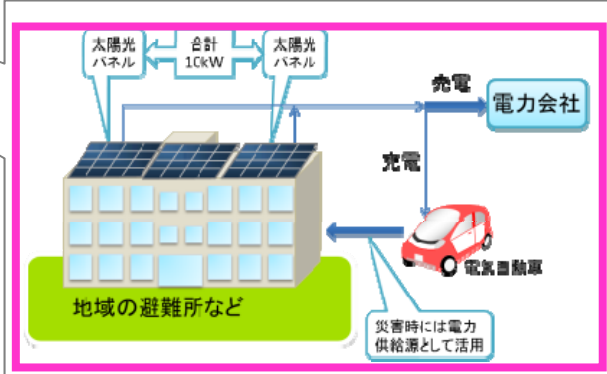
リーディングプロジェクト① 地域モビリティ&地域防災に繋がる ハイブリッド型EVシェア事業

- 【フェーズ1】事業スタート
観光客・出張客のレンタカー的利用が主のハイブリッド型シェア
- 【フェーズ2】マイカー感覚
カーシェア的利用の浸透・拡大
- 【フェーズ3】福祉EV車両導入
医療・福祉分野への拡大
- 【フェーズ4】マイカーとしても普及
地域に根付いたEVによるまちづくり



リーディングプロジェクト② 地域創省エネ・低炭素&地域防災に 繋がるPV事業

- ① 企業コミュニティが主体の敷地(屋根)借りPV事業
- ② EVシェア事業の利益で投資資金を準備
- ③ 平常時は固定価格買取制度を活用して売電
- ④ 災害時は避難所の電源やEVの充電設備として活用



薩摩川内の地域多様性を活かした観光・住民交流の促進モデル構想

～エネルギーが支える、人々が行き交い住み続けたいまちを目指して～

代表提案者

鹿児島県薩摩川内市

薩摩川内市は、島しょ部(シマ)、市街地(マチ)、山間部・農村部(ヤマ)など、多様な地理的特性を有し、地域独自の課題が存在する。「エネルギーのまち」として市内の多様なエネルギー資源を活用し、「シマ」活性化(エコアイランド)モデル、「マチ」QOL(生活の質)向上モデル、「ヤマ」定住化モデルづくりを目指す。

島しょ部(シマ)

市街地(マチ)

山間部・農村部(ヤマ)

全体構想

- ◆ 市民と地域の交流を促すスマートアクセスの実現を図る。(交通・観光)
- ◆ 情報通信技術を活用し、より快適なライフスタイルの実現を図る。(交通・くらし)
- ◆ スマートグリッドの整備・スマートハウス導入・賢いエネルギーの使い方に配慮した生活様式・エコまちの実現を図る。(くらし)
- ◆ HEMS端末により生活支援系サービスを提供し安心・利便性の高い生活環境を創出する。(くらし)
- ◆ エネルギー関連施設を結び「エネルギーのパビリオン化」を図る。(観光)

甌島における電気自動車導入実証事業

- 電気自動車をリース方式で導入
- 平日は主に市公用車として支所で活用、週休日は主に観光客向けのレンタカーとして運行
- 利用者(観光客等)より、電気自動車の走行データや充電頻度等に関するデータ収集を行い、将来的なエコアイランド化に向けた具体的取組へ

甌島における超小型モビリティ導入実証事業

- 島内の市支所、レンタカー(カーシェア)事業者、観光団体、地区コミュニティ協議会等に超小型モビリティを導入
- 市民モニターを募り、実際の生活の中での体験機会を提供
- 利用者(市民等)より、超小型モビリティに係る走行距離、位置情報及びバッテリー残量等に関するデータを収集
- 主に市民の利便性の向上を図るとともに、将来的なエコアイランド化に向けた具体的取組へ

島しょ部、市街地、山間部・農村部ごとのリーディングプロジェクト



川内駅～川内港におけるシャトルバスの電気バス化事業

- 平成26年春からの川内港発新高速船就航に伴い、川内駅と川内港との間を運行するシャトルバスに電気バスを導入、地域交通のグリーン化へ
- 運行事業者の公募、電気バス及び電気バス用充電設備の入札を実施

市内中心部におけるスマートハウス導入実証事業

- 創蓄省エネ機能を備えたスマートハウスを導入、本住宅を活用した実証実施
- 本住宅を普及啓発・施策発信の拠点と位置付け、市内外からの来訪者に情報提供

スマートグリッド実証試験

- 市内全戸に対し、電力需要等に関する意識調査を実施
- 市民モニターを募り、スマートメーターや「エネルギーの見える化」端末を導入、季節や時間帯に応じた最適需要パターンの確立を促進

(図出所)薩摩川内市次世代エネルギービジョン行動計画、薩摩川内市観光協会HP、国土交通省HP